

ロイヤルくつろぎの森いよいよ開設いたします

医療法人啓仁会 ロイヤルくつろぎの森開設準備室 (埼玉県所沢市) 室長 櫻井 忍

昨年 9 月 14 日に「新規事業建設予定地」において地鎮祭が執り行われ、当時何もない広場だった場所は着々と建築工事が進み、地鎮祭当時の様子を思い出すことも難しくなってきました。新規事業所の名称は「ロイヤルくつろぎの森」となりました。その開設準備室では、職員募集や、必要書類の準備、食事提供会社の選定、物品や制服選定等、スケジュールに沿って、皆さまのお力を拝借しながら 3 月に開所するための準備を進めてまいりました。

所沢ロイヤル病院からは約 10 名の職員が新施設に異動します。病院での経験は長いものの、介護施設でどのような働き方をするのか、期待とともに不安を抱く職員もいました。そのため、関連施設での見学実習をさせていただいたり、近隣の認知症対応型共同生活介護事業所で実習をさせていただいたことで、「介護施設で働く自分」のイメージがふくらんできています。自分たちが提供したい利用者さまに喜ばれる介護・看護に向け学

んだことを大切に現場に生かしたいと思えます。ご協力いただいた施設の方々、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、ロイヤルくつろぎの森は、看護小規模多機能型居宅介護事業所「かんたき こもれび」と認知症対応型共同生活介護事業所「グループホーム つどい」の二つの事業所が入る複合型の施設となります。地域の方々からは、「何か建っているけど何ができるのかしら?」「どのような施設なのかしら?」「どんな人が利用できるの?」などのご相談をいただいております。そこで、簡単に施設の内容をご紹介します。

ロイヤルくつろぎの森は地域密着型サービスなので、所沢市に住所がある方の利用となります。「かんたき こもれび」は、要介護 1～5 の方が対象です。一つの施設で泊りや通い、訪問を柔軟に組み合わせ、その人だけのケアプランを作成し、プランに沿ったケアを提供します。時にはご本人やご家族の状

況が変わり、急なサービス変更もありますが、可能な限り皆で相談して、より良いサービス提供を行います。床ずれの処置や点滴など医療処置がある方も対応できます。

「グループホーム つどい」は、要支援 2～要介護 5 の方が対象です。認知症の方が少人数で家庭的な雰囲気でも共同生活を送る入居施



玄関外観

設になります。可能な限り、自由に 1 日を過ごしていただき、入浴や食事等でお手伝いが必要な方にはスタッフが対応します。

どちらの施設も、医療法人啓仁会として初の施設です。また看護小規模多機能型居宅介護施設は所沢市で初の施設です。「ここにこの施設ができてよかった」と地域の方々に思っただけのように、愛される施設を目指し職員一丸となって前進していききたいと思います。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

・・・【施設名の由来について】・・・

ロイヤルくつろぎの森

- ・地域の中で、この場所で過ごすことで心地よく、くつろげる場所でありたい

看護小規模多機能型居宅介護事業所

かんたき こもれび

- ・枝葉からもれる光の先に希望が見えるイメージ
- ・利用者（家族）の希望となるような施設になるように

認知症対応型共同生活介護事業所

グループホーム つどい

- ・地域の人も家族もつどえる場所であってほしい



食事にもこだわっています

オンライン資格確認機を活用しましょう

医療法人啓仁会 平成の森・川島病院 (埼玉県川島町) 医事課主任 木村 清志

オンライン資格確認とは保険証の代わりに保険情報を登録したマイナンバーを使って、健康保険証の資格が継続しているかを確認できるシステムです。

10 月から当院受付でもマイナンバーを使ったオンライン資格確認が出来るようになりました。資格確認機の名前はオンライン資格確認カードリーダー「マイナタッチ」です。これによって、保険内容に変わりがなければ

登録されている保険情報が現在でも継続しているかが分かるようになり、もし有効期限が切れた保険証を持ってきてしまっても確認ができるようになりました。

しかし 10 月から導入して、使用できるか確認した 1 度だけしか使用したことがありません。まだ毎月の確認はみなさん保険証です。

現在使っている健康保険証が 2024 年秋に廃止になり、マイナンバー保険証の使用が義

務化されるので今のうちから慣れておくのはいかがでしょうか。



マイナタッチの外観

マンモグラフィ検診施設・画像認定を取得しました！

医療法人啓仁会 石巻ロイヤル病院（宮城県石巻市） 診療技術部放射線科 三浦 京子

皆さんは「乳がん検診」を受けていますか？
その際「マンモグラフィ検査」を受けたでしょうか？

その「マンモグラフィ検査」には認定制度があることをご存じでしょうか？

当院では令和4年度から乳がんの住民検診を始めることになり、そのために必要なマンモグラフィ検診施設認定を取得しました。

この認定ですが、わが国で唯一、マンモグラフィ画像認定を行う、日本乳がん検診精度管理中央機構という機関が行っており、そこに必要な書類、画像、データなどを提出し評価をしてもらいます。提出した全ての項目が、合格基準に達していれば認定証が発行される

というものです。

この認定を取得している施設では、マンモグラフィの画質並びに撮影時の被ばく線量、乳房撮影装置の日常管理や品質管理、読影に使用する高精細モニタの日常管理や品質管理など必要な項目全ての基準をクリアしているため、より質の高いマンモグラフィの検診が受けられることを意味しています。

そして、この認定ですが、一度取得したら終わりではないのです。3年ごとの更新が必要になっていて、継続して合格基準を維持していかなければなりません。

では、何故、この施設認定が必要なのでしょう？

国内の乳がんの罹患率は年々増加傾向にあり、2021年予測では、9人に1人が乳がんにかかると言われていています。この罹患率ですが、30代後半から40代にかけて急増し、ピークは40代後半から50代前半と閉経後の60代後半から70代前半にあります。女性のがんの中で第1位の罹患率です。

しかしながら、乳がんの死亡率は第5位となっており、他のがんに比べると比較的予後が良いとされています。

このことからわかるように、乳がんは早期に発見できれば治せる可能性の高いがんです。そのためには、定期的な検診や自分で乳房を触って異常がないか確認するセルフチェックが大切です。乳がんを早期に見つけるためにも、画質の良いマンモグラフィの検査が受けられる施設かどうかが重要となります。その判断材料となるのが、マンモグラフィ検診施設認定なのです。

乳がんは、比較的若い子育て世代の方から高齢の方まで、幅広い年齢層で罹るがんです。

まだ乳がん検診を受けたことがない方やしばらく検診を受けていない方には、定期的に乳がんの検診を受けて欲しいと思います。「マンモグラフィは乳房をぎゅっと挟むから痛くて受けたくない」とか「痛って聞いたから怖くて受けたくない」といった、ネガティブな意見もあるでしょう。ですが、是非、自分の乳房を大切にしたいのです。

そして、セルフチェックも忘れずに行ってくださいね。何かいつもと違うなとか変だなとか思ったら、早めに病院を受診してください。

そしてもし、皆さん自身がマンモグラフィ検査をどこで受けるか迷ったら、この施設認定を取得している施設を、是非、選んでください。

当院でも、日常の管理を徹底し、皆さんが画質の良い「マンモグラフィ検査」をいつでも受けられるように努力しております。



当院使用のマンモグラフィ装置



今回取得したマンモグラフィ施設認定証

2次救急医療機関として

医療法人啓仁会 吉祥寺南病院（東京都武蔵野市） 医事課主任 秋元 和矩

当院は2011年より2次救急医療機関として地域の皆様へ向けた病院として貢献すべく医療体制を整えてきましたが、このたび救急部門の在り方を見直し、より良い救急病院となるべく再スタートを切りました。

2次救急とは入院や手術を要する重症度の高い症例に対する医療です。当院も東京都北多摩南部医療圏そして武蔵野市の救急指定病院の一員として、整形外科や脳神経外科の症例を中心に1年365日24時間体制で医師が

常駐し、患者様へ医療を提供しております。

このたびの見直しの一環として救急要請から応需、患者様の受け入れまでのシステムを一新し、よりスムーズで確実、安全、安心信頼の医療を提供し、患者様はもちろんご家族の方々への配慮もしっかりとできるよう日々努めております。

救急でのご受診の後も、外来受診によるフォローや入院・手術、そしてリハビリなどで元の生活へ近づくための最大限のサポートを致します。

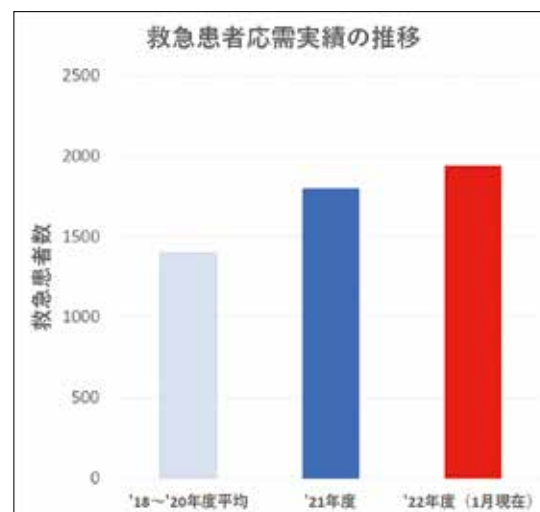
また、ハード面でも厚労省主導で全国的に導入が進められている「マイナンバーカードによるオンライン資格確認」を2022年4月より先んじて導入しております。これにより夜間の急な受診の場合でも、リアルタイムで薬剤情報や保険情報などを反映できる体制

も整えています。

今後も医師、看護師、薬剤師、技師、栄養士、療法士、事務員などすべての職員が一丸となり、地域の皆様のお役に立てるよう邁進していく所存であります。



救急隊と事務職員の協力体制も万全です



救急患者応需実績

なみきロイヤルの園・節分レク

社会福祉法人栄光会 特別養護老人ホーム なみきロイヤルの園（埼玉県所沢市） 事務課長 金淵 朋康

コロナ禍での生活も3年が経過し、ご入居者にはご家族との面会や外出等を制限し不自由をおかけしています。

当初は行事やレクリエーションを全面中止し、ご入居者にとって退屈な施設生活だったかと思いますが、行事については規模を縮小しながらも職員のアイデアや工夫でご入居者に楽しんでもらえるよう努力しています。当施設では特に季節行事を大切にしており、今回は節分レクの様子を皆様にお伝えしたいと思います。

昼食は、いわしハンバーグでした。節分にいわしを食べる風習は関西地区が中心で一般的ではないようですが、いわしは焼いたときの臭いで鬼を遠ざけるとも言われており、皆で1年の無病息災を祈念しながらいただきました。恵方巻きが大阪発祥（諸説ありますが）であったように、いわしを食べる風習も今後定着するかもしれませんね。豆まきは、夜ではなく日中に行いました。

鬼に扮した職員がユニット内を回り、ご入居者の「福は内、鬼は外」の掛け声に退散していく姿はご入居者の笑顔を誘うほどの名演技でした。おやつですが、さすがに歳の数だけ豆を食べることはできませんので、鬼の形をしたお菓子を食べ煩惱や欲望を追い払いすべての行事は終了しました。

昼食からおやつまでの短い時間でしたが、各部署担当者のご入居者への思いが詰まった素晴らしい時間となりました。なみきロイヤルの園では今後もご入居者本位のサービス提供を心掛け、お一人お一人の笑顔を大切に職員一同、より一層精進してまいりたいと思います。



節分にピッタリのいわしバーグに豆ごはん



迫る来る鬼に思わず笑いが…



かわいい鬼さんのおやつね



怖さが伝わりますか？

「パン」はじめました

医療法人昭仁会 北野病院（埼玉県新座市） 管理栄養士 藤原 実貴 / 介護老人保健施設四季の里 管理栄養士 堺 充由・村居 里奈、栄養士 佐藤 可奈子

北野病院・四季の里ではスイスをテーマにした料理を提供しました。スイス料理と言えばチーズフォンデュが有名で、パンや野菜をフォークや串に刺して溶かしたチーズに絡めて食べるのが一般的ですが、今回はお食事として提供するためシチュー風にアレンジしました。チーズフォンデュと言えば主食はご飯ではなくパン！ということで、今回、初の試みとしてパンを提供しました。がしかし……。問題が2つありました。1つ目は高齢の方にとってパンは詰まりやすく危険ということです。この点については事前に周知し職員の皆さんにご協力頂き安全に配慮することで解決しました。2つ目は、職員食の主食がパンで足りるのかということです。召し上がる職員の多くは看護師や介護職員など体を動かして働く方で女性もいれば男性もいます。

当院の職員食は普段、ご飯と汁物はジャーで提供しており召し上がる方が各自自分の食べたい量を盛って頂く形式になっていますが、パンは「好きなだけどうぞ」と言うわけにはいきません。全員に満足して頂くために、メニューの構成とパンの量（個数）で悩みました。メニューは、チーズフォンデュにフィレ・ド・ペルシュ（白身魚のフライ）、ジャムもお付けして、どれを食べてもパンに合うよう鉄壁のガードを固めました。そして量については、大きいパンを2個にするのが、小さめのパンにして2種類3個にするかという選択になり、栄養課での議論の末、トータルの重量は同じでも種類と個数があった方が満足感があるだろうという結論に至り、ロールパン2個・ほうれん草パン1個の計3個を

付けることにしました。

実際に一つのお膳にしてみると、思った以上にボリュームを感じる仕上がりとなり心配していた量については特に問題となることはなく、いつもとは少し違った昼食に良いご意見をたくさん頂戴し、概ね満足して頂けたようでした。

が、一つだけ誤算がありました。やはりそこは日本人。「やっぱり米も食べたい!!」という方が意外といらっしゃいました。そのご意見は次回への参考とさせて頂くこととし、また機会があればパンを提供したいと思います。



職員用のパン



スイス料理の紹介



今回のメニュー

【～お品書き～】

ロールパン（苺ジャム）
チーズフォンデュ風シチュー
（ソーセージ、海老、ブロッコリー、南瓜）
フィレ・ド・ペルシュ
具沢山スープ

地域に必要とされるリハビリテーションを目指して

医療法人啓仁会 豊川さくら病院（愛知県豊川市） リハビリテーション室 小田 桂嗣

当院では、脳血管疾患、大腿骨骨折などの患者さまに対し、在宅復帰を目的に集中的なリハビリテーションを行う回復期リハビリテーション病棟や急性期の治療を経過した患者さま、在宅療養中で入院が必要となった患者さまに対して、治療、リハビリを行い、住み慣れた環境へ退院するための支援をする地域包括ケア病棟などを有し、「急性期病院の後方支援」、「在宅療養困難者の受け入れ」、「在宅復帰支援」の役割を担っており、地域に密着した医療サービスを提供しております。

そうした中で当院のリハビリテーション室はリハビリテーションの専門職である理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が総勢 80 名以上在籍しており、入院・外来・訪問リハビリテーション、さらには新規開設した短時間通所リハビリテーションを提供しています。

今回は昨年 10 月 1 日の新築移転を機に、リハビリテーション室も設備の充実を図りましたので

主な特徴を 3 つご

紹介致します。

1 つ目は入院中に自宅を想定した訓練が提供できる「日常生活（ADL）のスペース」です。訓練室の一角にキッチン、浴室、和室、階段を備えたスペースや縦・横の手すり、座面の位置が動かせ、自宅のトイレ環境を再現できる設備もあります。

2 つ目は季節を感じながら訓練を行える「屋外スペース」です。スロープ、階段、園芸エリアなどがあり、東三河で最も標高の高い本宮山が見え、開放感のあるエリアとなっています。

3 つ目は効率良く身体機能の向上を図ることができる「運動マシン」です。空気圧を利用し、円滑な関節運動で筋力訓練が行える筋力トレーニングマシンや、脳のトレーニング（計算・ジャンケンなどの課題）と運動が同時に行え、認知症の予防・改善に期待できるコグニバイク、重症の方にも安心安全に歩行訓練などが行える安全懸架装置、全身の筋肉量や脂肪率が測定できる体組成計などを導入しております。

こうした設備の充実により、個々の患者さまの身体機能に合わせたリハビリテーションの幅が広がりました。

入院中に集中的なリハビリテーションを受けられた患者さまの中には、退院後しばらくしてから身体機能の低下に不安を抱く声が挙がります。そのような時は当院の外来リハビリテーションや介護保険をお持ちの方は訪問、短時間通所リハビリテーションを継続することで身体機能を維持・向上の期待ができます。当院の短時間通所リハビリテーションの特徴は「リハビリテーションの専門職がいるジム」です。経験を有したリハビリテーションの専門職が全身の筋力、バランスなどの検査を行い、一人ひとりに合わせた個別訓練や自主トレーニングの提供をします。

実際に利用している方からは

- ・「家で寝てばかりだったけど、少しずつ起きて過ごせるようになってきた」
- ・「一人で買い物に行けるようになった」
- ・「外出する意欲がわいてきた」

などの喜ばしい声が聞かれております。見学なども受け付けておりますので、お気軽にお問合せ下さい。



開放感あふれる屋外スペース



約 450㎡ある広々としたリハビリテーション室



充実した ADL スペース



認知症予防・改善に期待できるコグニバイク



安心・安全に訓練可能な安全懸架装置

当院職員は患者さんに温かく寄り添い、身体回復の可能性を最大限に引き出し、住み慣れた地域でその人らしく生き生きと暮らしていけるよう、この地域にはなくてはならない存在になれるよう邁進していきます。

栄養マネジメント強化加算について取材を受けました

医療法人啓仁会 介護老人保健施設 所沢ロイヤルの丘（埼玉県所沢市） 栄養科 長井 友香、後藤 彩菜

「シルバー産業新聞」という業界紙の 1 月 10 日号では「口腔・栄養ケア」特集が生まれ、令和 3 年度介護報酬改定で新設・拡充した口腔・栄養関連加算の分析、および加算を通じて自立支援・重度化防止に努める介護現場の事例紹介として、当施設が実践している食・栄養の個別支援、および栄養マネジメント強化加算をはじめとする加算の運用方法について取材を受け、記事が掲載されました。

当施設では、令和 3 年度介護報酬改定と同時に、栄養マネジメント強化加算を開始しています。栄養ケア・マネジメント自体は以前より取り組んでいましたが、栄養マネジメント強化加算が新設されたことで、栄養面だけでなく、生活歴や現在の精神状態、認知機能、リハビリへの意欲など、さまざまな情報を把握する事が重要だと感じ

ています。

また、経口移行加算・経口維持加算においては、歯科医師をはじめ、多職種が連携する事により、より専門的な個別支援を行うことが可能であり、入所者様の ADL の向上へと繋がられています。

入所者様にとって、食事は栄養状態の維持や改善だけが目的ではなく、楽しみの一つです。長期間入所している方へは、季節を感じて頂くために、旬の食材を使用したメニューの提供を心掛けています。また、嚥下調整食においても、「嚥下調整食学会分類 2021」を基に、食べやすく、見た目にも食べる意欲が増すよう、厨房スタッフと連携を図っています。

令和 3 年度介護報酬改定の施策の背景には、「リハビリ・機能訓練」「口腔ケア」「栄養改善」の推進が打ち出されたことがあり

ます。今後は、入所者様の栄養管理だけでなく、幅広い視野を持って多職種と連携し、入所者様とご家族の意向に寄り添い、より質の高い丁寧な「食支援」を目指していきたいと思ひます。



シルバー産業新聞に掲載されました